

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月開催
基準日	定時株主総会 毎年3月31日 期末配当金 毎年3月31日 中間配当金 毎年9月30日 そのほか必要があるときは、あらかじめ公告して 定めた日

単元株式数 100株

【株式に関する住所変更等のお届出及びご照会について】

証券会社に口座を開設されている株主さまは、住所変更等のお届出及びご照会は、口座のある証券会社宛にお願いいたします。証券会社に口座を開設されていない株主さまは、下記の電話照会先にご連絡ください。

株主名簿管理人及び
特別口座の口座管理機関 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社

株主名簿管理人
事務取扱場所 大阪市中央区北浜四丁目5番33号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

(郵便物送付先) 〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

(電話照会先) ☎0120-176-417
(※平成25年1月より郵便物送付先・電話照会
先が変更となります。)
〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
☎0120-782-031

(ホームページURL) <http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html>

上場証券取引所 東京証券取引所市場第一部
大阪証券取引所市場第一部

公告方法 電子公告の方法により行います。
ただし、電子公告によることができない事故その
他のやむを得ない事由が生じた場合には、日
本経済新聞に掲載して行います。
公告掲載URL
<<http://www.ichinenhd.co.jp/>>

【特別口座について】

株券電子化前に「ほふり」(株式会社証券保管振替機構)を利用されてい
なかった株主さまには、株主名簿管理人である上記の三井住友信託銀行株式会
社に口座(特別口座といいますが)を開設しております。特別口座についてのご
照会及び住所変更等のお届出は、上記の電話照会先をお願いいたします。



株式会社 イチネンホールディングス

(東証・大証1部コード: 9619)

〒532-8567 大阪市淀川区西中島四丁目10番6号

TEL. 06-6309-1800 (代表)

Facebook公式ページ <http://www.facebook.com/ichinengroup>

▼携帯サイトは
こちらから



前へ、もっと、前へ。

株主の皆さまの声を お聞かせください

当社では、株主の皆さまの声を
お聞かせいただくため、
アンケートを実施いたします。
お手数ではございますが、
アンケートへのご協力をお願いいたします。

懇親会開催に伴う、
設問がありますので、
ぜひアンケートに
ご協力ください。

下記URLにアクセスいただき、
アクセスコード入力後に表示される
アンケートサイトにてご回答ください。
所要時間は5分程度です。

☎ <http://www.e-kabunushi.com>
アクセスコード 9619

いいかぶ

検索

✉ 空メールによりURL自動返信

kabu@wjm.jpへ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入)
アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。

📱 携帯電話からもアクセスできます

QRコード読み取り機能のついた携帯電話をお使い
の方は、右のQRコードからもアクセスできます。



●アンケート実施期間は、本書がお手元に
到着してから約2ヶ月間です。

ご回答いただいた方の中から
抽選で薄謝(図書カード500円)
を差し上げていただきます

※本アンケートは、株式会社 a2media(エー・ツー・メディア)の提供する
「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。
(株式会社 a2mediaについての詳細<http://www.a2media.co.jp>)
※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます、事前の承諾なし
にこれ以外の目的に使用することはありません。

●アンケートのお問い合わせ TEL:03-5777-3900 (平日 10:00~17:30)
「e-株主リサーチ事務局」 MAIL:info@e-kabunushi.com



ICHINEN HOLDINGS

IR
REPORT

第51期 中間報告書

2012年4月1日から2012年9月30日まで

東証・大証1部 コード: 9619



株式会社 イチネンホールディングス



前へ、もっと、前へ。

売上・利益の両面とも業績は順調に推移。
さらなる「増販・拡大」に注力いたします。



株主の皆さまにおかれましては、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

つきましては第51期第2四半期連結累計期間の業績をご報告させていただきます。売上高は24,361百万円(対前年同期比2.9%増)、営業利益2,006百万円(対前年同期比6.3%増)、経常利益1,834百万円(対前年同期比5.1%増)、四半期純利益1,000百万円(対前年同期比7.4%減)となりました。

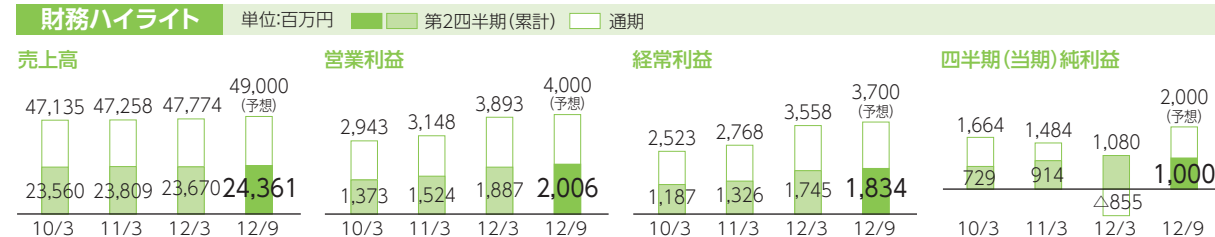
売上・利益の両面について、当初目標数値を上回っており、厳しい経営環境の中、業績は順調に推移しております。その主な要因は、リース事業における契約台数・契約残高の堅調な伸びに加え、原油市況の影響を受けやすい燃料販売事業において、主力である自動車用燃料給油カードの販売価格調整が適切に実施できたこと

にあります。

第51期は、前々期・前期に引き続き「低コスト経営」の利益重視を前提とした「増販・拡大」を経営方針に掲げ取り組んでおります。過去2年、営業利益・経常利益とも過去最高を更新しているものの、売上面は思いのほか伸び悩んでいるのが実情です。当第2四半期連結累計期間においても売上高は前年同期と比べると、たしかに順調ですが、まだまだ納得できるレベルではありません。より一層の「増販・拡大」に注力してまいりたいと考えております。

株主さまにおかれましては、今後ともご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長 黒田 雅史



時代の変化に合わせ、 イチネングループは これからも変化し続けます。



代表取締役社長 黒田 雅史

Q 3期連続で「増販・拡大」を年度経営方針とされている理由をお聞かせください。

A 将来における脱化石燃料の時代に対応するため、質的拡大と量的拡大を推進しております。

イチネングループの中核を担っている事業は自動車関連です。現在はガソリン車が大半ですが、いずれ電気自動車やハイブリッド車が中心になっていくことが予想されます。そうなった場合、リース事業やパーキング事業はともかく、自動車メンテナンス受託事業や燃料販売事業は大きく影響を受けるでしょう。また脱化石燃料化は、自動車との関連が比較的小さいケミカル事業に

も、燃料添加剤を主力の一つとしているだけに影響を与えかねません。こうした時代の到来まで、どの程度の時間的猶予があるのかは正確に見通せないとはいえ、将来のイチネングループを考えると今から質・量ともに拡大を図り、来るべき“その時”に備えなければなりません。

質的拡大とは、事業構造の変革を意味しています。自動車・化石燃料への依存度を小さくするために、新たな事業を付加していくことが命題です。一方、量的拡大の目的は、将来のための顧客確保にあります。現在のターゲット市場でのシェアアップを図り、脱化石燃料の時代が到来した際に、新たな商品を提供していける基盤を確立するのが狙いです。

Q 今年の8月・9月に相次いで子会社化した前田機工株式会社と株式会社ジコーは質的拡大の一環ですか。

A 時代の変化に合わせて企業も変化しなければなりません。子会社化はそのための試みであり布石です。

前田機工株式会社は機械工具の卸を行っている専門商社で、売上高の約40%を自動車整備工場向けが占めています。当社の自動車メンテナンス受託事業における7,100社におよぶ整備工場ネットワークへの活用もさることながら、主眼は商社ビジネス導入による新しい展開です。一方、株式会社ジコーは合成樹脂の再生加工・販売を核に、アミューズメント機器や、大手が参入しにくいタイプのLED照明等の設計・製造・販売など、幅広い領域で独自のノウハウを有している企業です。両社ともこれまでイチネングループになかった領域でのビジネスを手掛けており、期待は大きいものがあります。

ここ数年取り組んできた量的拡大については、リース事業、自動車メンテナンス受託事業、燃料販売事業等、自動車関連事業として、営業の効率化、情報の共有化による連携が着実に成果を上げています。戦略的には、まだまだ開拓の余地がある地方の中堅・中小企業に力点を置いた営業活動を展開しています。

また、パーキング事業は、都市圏が中心ですが、大病院等の大型の案件を受注できるようになり、パーキング事

業において、ひとつの柱になりつつあります。

ケミカル事業は、東南アジア等、本格的な海外展開へ向けた準備段階です。当期において、ある程度、目鼻をつけることができると考えています。

Q 下半期および通期の見通しをどのように捉えておられますか。

A 第51期は売上・利益ともに過去最高を目指しております。

売上高については、新しく子会社化した2社の実績が加わることで、過去最高が達成できる見通しです。利益面においても、既存事業が順調に推移すると見込んでおり、営業利益・経常利益における3期連続過去最高は更新できると思います。

株主さまに対しましては、堅調な業績を受けて、中間配当を当初予定に1円上乗せし10円とさせていただきます。期末配当は9円を予定しております。

時代の移り変わりに合わせ、イチネングループは変化を続けてまいります。株主さまにおかれましては、持続的成長を可能にする新しい取り組みを温かく見守っていただければ幸いです。

イチネングループが持続的な成長を可能にするためには、自動車関連事業に偏らないバランスの良い事業構造の構築が必要です。そこで当期において前田機工株式会社・株式会社ジコーを子会社化し、新規事業として機械工具販売事業・合成樹脂事業への取り組みを開始しました。

機械工具販売事業 前田機工株式会社

イチネングループの自動車整備工場ネットワーク7,100社と前田機工株式会社の既存取引先2,000社を互いの新市場と捉えてシナジー効果を発揮。

前田機工株式会社の主要事業である機械工具販売は、売上の約40%が自動車整備工場向けとなっています。今回の子会社化により、イチネングループが有する約7,100社の自動車整備工場ネットワークを活かした拡販が期待でき、さらには前田機工株式会社の既存取引先である約2,000社がイチネングループの新しい市場として加わり、サービス・商品の拡大が望めます。



自動車整備に不可欠な汎用性の高い車体固定機器

幅広い機械の整備に対応できるハンドツール

■ 前田機工株式会社 プロフィール

代表	影山 忠廣	創業	1925(大正14)年1月
本社	大阪市西区	資本金	2億7,500万円
売上高	62億円(2011年12月期)	従業員数	95名
事業所	大阪本社 支店: 大阪・東京・仙台・東東京・横浜・名古屋・東大阪・広島・福岡		
事業内容	機械工具、自動車整備用工具・機器、自動車鈹金省力化システムの販売、オリジナル機器・商品の開発・販売、損害保険、リース業		

合成樹脂事業 株式会社ジコー

今後の成長への可能性を秘めた環境等の新分野への参入を積極的に推進し、新しい事業の柱づくりに注力します。

株式会社ジコーは、合成樹脂事業を柱としながらも、成長性の高い分野へ幅広く取り組み、環境への配慮をキーワードとする事業も推進しています。イチネングループにとって株式会社ジコーの事業領域は、ほとんどが未参入の分野であり、今後の成長への可能性を促す新規事業として積極的に注力していく方針です。

■ 環境に配慮した事業展開



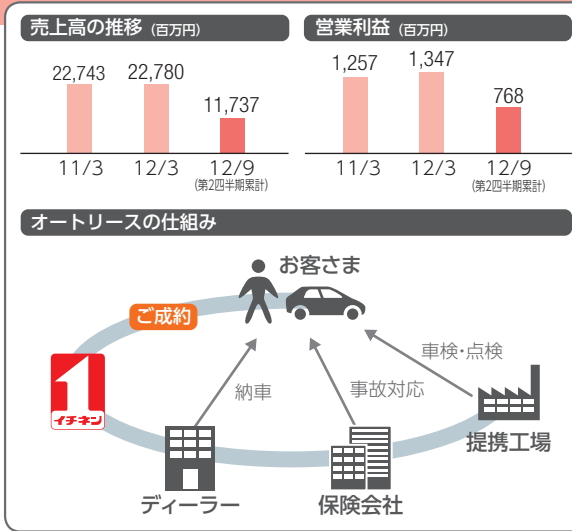
■ 株式会社ジコー プロフィール

代表	灰本 栄三	創業	1976(昭和51)年9月
本社	東京都千代田区	資本金	1億6,700万円
売上高	64億円(2012年3月期)	従業員数	70名
事業所	株式会社ジコー 東京本社、開発センター 株式会社ジコーテック 群馬工場 株式会社ジコーポリマー 美里工場		
事業内容	合成樹脂、環境システム、機械・環境プラントの販売、合成樹脂リサイクル材の開発・製造・販売、アミューズメント、LED照明の製品を開発・製造・販売、科学計測(ガス検知器)、電子(セラミックヒーター)の開発・製造・販売		



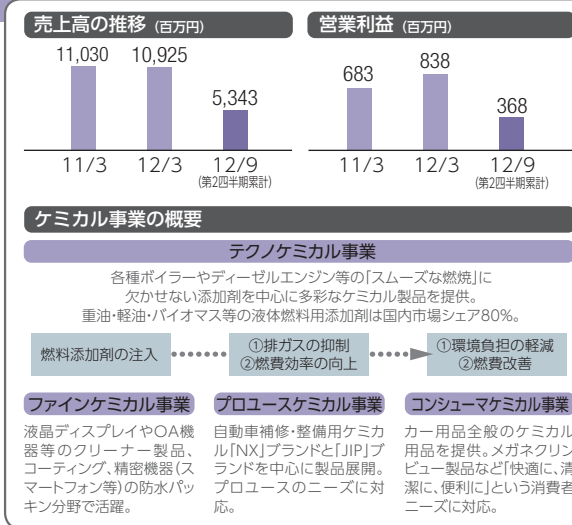
リース事業

- 中小口規模の企業を中心にリース化の進んでいない車両需要先をターゲットに新規販売を積極的に行いリース契約の増加に努め、既存顧客との取引深耕にも注力しました。
- 2012年9月末現在リース契約台数は58,849台(対前期末比856台増)となり、リース契約高は120億16百万円(対前年同期比22.6%増)、リース未経過契約残高は461億92百万円(対前期末比3.1%増)となりました。
- 低年式・走行過多車両の入替えを促進、メンテナンスコストの抑制に注力し、採算販売の徹底により、売上高は117億37百万円(対前年同期比3.9%増)、セグメント利益は7億68百万円(対前年同期比20.5%増)となりました。



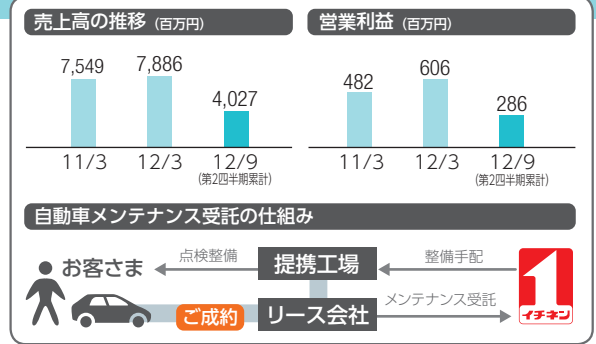
ケミカル事業

- 工業薬品関連では、主力製品の燃料添加剤の販売数量は前年同期比で増加となりました。また、化学品関連では、機械工具商向け化学品やホームセンター等で販売される個人向け自動車ケミカル製品等は好調に推移いたしました。また、防水型携帯電話部品関連でスマートフォン向けの受注台数がやや減少しました。
- 売上高は53億43百万円(対前年同期比0.7%減)、セグメント利益は3億68百万円(対前年同期比8.3%減)となりました。



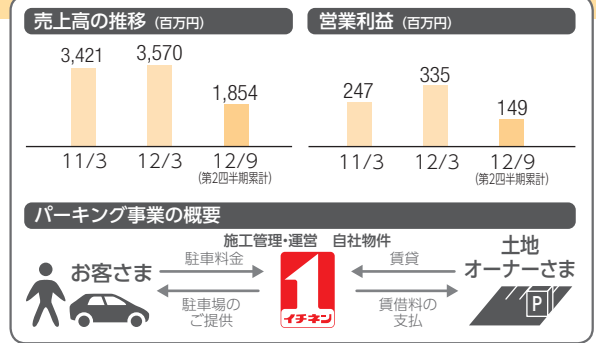
自動車メンテナンス受託事業

- 当社グループ独自の強みである高点検率、営業品質を追求しながら、契約台数、契約残高の増加に努めてまいりました。
- メンテナンス受託契約高は29億37百万円(対前年同期比18.7%増)、メンテナンス未経過契約残高は69億41百万円(対前期末比8.6%増)となりました。
- 中古自動車の販売数量は堅調に推移いたしました。エコカー補助金の影響により中古車市場の相場下落の影響を受け、売上高は40億27百万円(対前年同期比4.4%増)、セグメント利益は2億86百万円(対前年同期比6.8%増)となりました。



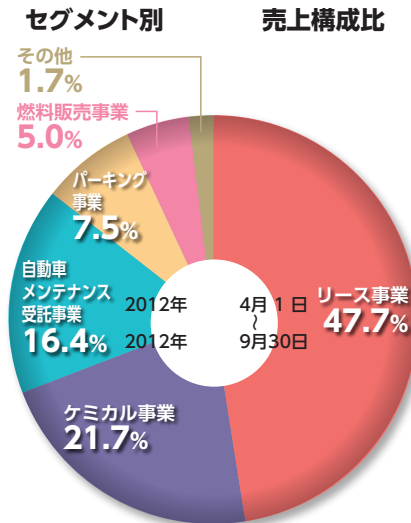
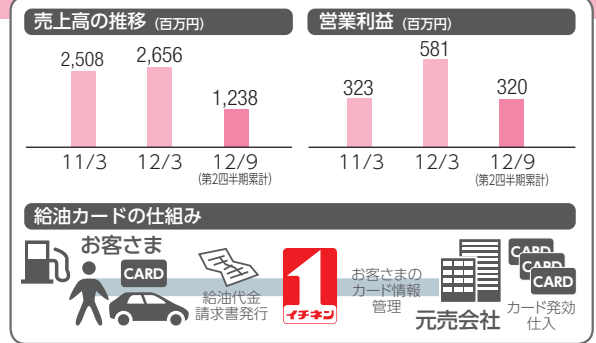
パーキング事業

- 中長期的に安定した収益基盤を築くため、更なる駐車場数の拡大と引き続き不採算駐車場の採算改善を行い、駐車場個々の収益向上に努めました。
- 2012年9月末現在駐車場管理件数は669件(対前期末比48件増)、管理台数は17,157台(対前期末比1,047台増)となりました。
- 売上高は18億54百万円(対前年同期比5.9%増)、セグメント利益は1億49百万円(対前年同期比1.4%増)となりました。



燃料販売事業

- 燃料販売事業におきましては、主力である自動車用燃料給油カードは、付加価値の高いサービスを顧客に提供し、他社との差別化を図ることにより、新規顧客獲得並びに販売数量の確保に注力いたしました。
- 売上高は12億38百万円(対前年同期比9.6%減)、セグメント利益は3億20百万円(対前年同期比7.0%減)となりました。



etc. その他

- 卸売自動車用品の販売高が好調に推移し、保険等も安定した収益を確保いたしました。

- 売上高は4億16百万円(対前年同期比77.0%増)、セグメント利益は1億8百万円(対前年同期比30.4%増)となりました。

株式の総数

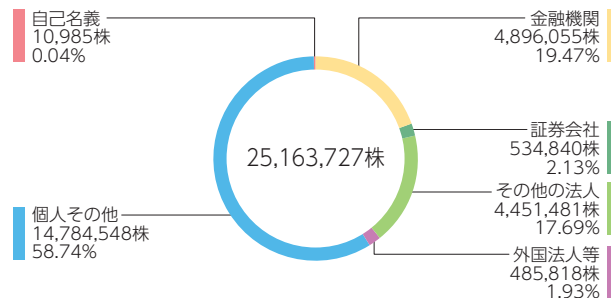
発行可能株式総数	80,000,000株
発行済株式の総数	25,163,727株
株主数	9,944名

大株主

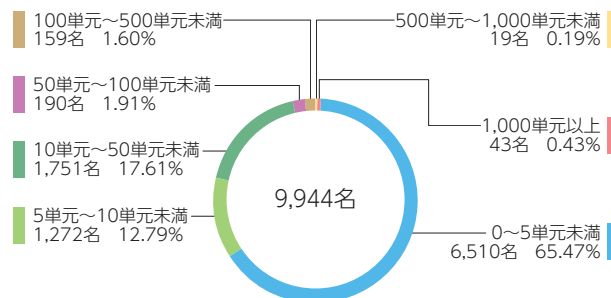
株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
第一燃料株式会社	2,350	9.34
三井住友信託銀行株式会社	820	3.26
黒田 雅史	755	3.00
黒田 和伸	655	2.60
黒田 勝彦	613	2.44
日本マスタートラスト 信託銀行株式会社 (信託口)	612	2.43
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社 (信託口)	543	2.16
黒田 恭年	486	1.93
イチネン共栄会持株会	475	1.89
日本生命保険相互会社	454	1.81

(注) 持株比率は自己株式 (10,985株) を控除して計算しております。

所有者別株式分布

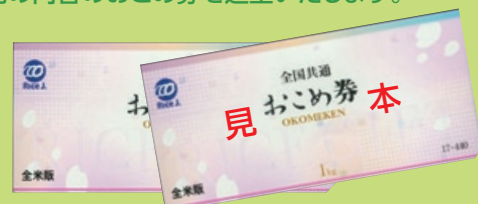


所有単元数別株主分布



株主優待情報

割当基準日/3月末日における持株数に対して右記の内容のおこめ券を進呈いたします。



持株数	内容
100株以上 500株未満	全国共通おこめ券 2kg
500株以上 2,000株未満	全国共通おこめ券 5kg
2,000株以上	全国共通おこめ券 10kg

会社概要

商号	株式会社イチネンホールディングス (ICHINEN HOLDINGS CO.,LTD.)
URL	http://www.ichinenhd.co.jp/
本店所在地	大阪市淀川区西中島四丁目10番6号
創業	1930年 (昭和5年) 6月1日
会社設立	1963年 (昭和38年) 5月7日
資本金	2,529,135,586円
従業員数	連結 735名 単体 56名

取締役及び監査役

代表取締役社長	黒田 雅史
取締役副社長	黒田 勝彦
取締役 専務執行役員	三村 一雄
取締役	影山 忠廣
取締役 執行役員	木村 平八
常勤監査役	奥田 純
常勤監査役	川上 弘伸
監査役	中室 修司

グループ会社

株式会社イチネン
株式会社タイホーコーザイ
野村オートリース株式会社
アルファオートリース株式会社
株式会社イチネンパーキング
イチネンBPプラネット株式会社
株式会社イチネンカーシェアリング
株式会社セレクト
前田機工株式会社
株式会社ジコー

ホームページのご案内

当社のホームページで最新情報を発信しております。ぜひ併せてご覧ください。

<http://www.ichinenhd.co.jp/>

イチネンホールディングス

検索

TOP
ページ



IRサイトの
一部



財務情報

グループ経営計画